
夏の思い出

科琳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の思い出

【Nコード】

N3194C

【作者名】

科琳

【あらすじ】

彼には彼女が居るのに……。彼が大好き！振られるの解つて告白なんて怖い！！でも、何も言わずに彼と離れたくない！！主人公はついに告白をして……。？彼とはずっと一緒にいたかったけどある日突然彼が！！！！

私は菜恋^{なこ}17歳高校3年生。私が好きな人は弥^{わたる}18歳高校3年生。住んでいる所も高校も違う。

私が彼と出会ったのは今年の夏キャンプへ行った時出会った。その時は、まだ予想

にもしていなかった…。私が彼を好きになる事を。それ以来、彼とは時々会う。電車が

一緒だったんだ。何度か会うようになって、私達は友達感覚で会うようになったのだ。

私は、彼の優しさに甘えそして惹かれていたのかもしれない。でも彼には恋人がいる。

私は彼と会う度に辛くなってしまう。叶わない恋だっけわかっていてもやっぱり彼が

好きだ…。

「菜恋？どうした？最近お前よくぼーとしてるけど何かあった？俺でよければ相談に

乗るよ？」私は貴方の事で悩んでいるのに…。『うつん。なんでもない。ありがとね。』

いいいたくても貴方の事だから言えない…。「そうか？何かあったら俺に話せよ？お前は

何でも1人で抱え込むから心配だよ。」私は…私なんかの為に何でも気を配ってくれて

優しい弥が好きだよ。やっぱり言えない…。怖い…。この関係が崩れるくらいなら言わ

ないほうがいい…。

1週間前の今日の私は弥に告っていた。そして、今日彼の返事を聞く。もう答えは解って

いるから聞きたくない。『この前はごめんね。困ったよね。私あな

たに恋人いるの知ってるから。でもこのまま別れて後悔するなら
て思った時には口にしていた。だからもう気にしないで？』……（
沈黙）「俺…あいつと別れてきたよ。」えっ？何で？』どうして？
私の

せい？私が貴方に気持ち伝えたから？』……（沈黙）「違うよ。俺
お前が好きだ。お前と

会うようになってから彼女ほったらかしてもお前と会ってた。それ
は友情じゃない。一緒

に居たかったから。お前が好きだからだ」またまた衝撃的な事を…。
大好きだった弥と恋人になれて嬉しかった反面罪悪感があった…。

私が問題で別れたかと

思うと…。でも、告ってしまったものは元には戻らない。弥が選ん
だのは私だから楽しもうと思った。前の彼女の分まで愛してあげよ
うと誓った。それから3年が過ぎ私達は21歳

になった。偶然私達は大学の学部は違うものの同じ大学に通ってい
た。

いつも一緒に帰っていた。その日はたまたま彼の用で一緒に帰らな
かった。そして、その日の夜彼のお母さんから弥が、交通事故にあ
って今病院に運ばれたという連絡が来た。

彼のお母さんから聞いた病院にすぐに駆けつけて、私は彼の姿を見
て今日一緒に帰って

いればこんな事にはならなかったのではないかと自分を責めた。今
の彼は脳死だった。

彼に向かって叫んだ。「どうして貴方なの！いや！私を1人にしな
いで！」泣いた。

一晩中彼のベッドの横で泣き叫んだ。泣いても彼から返事はないっ
てわかっていた…。

解ってはいたけど、私には泣く他に何も出来なかった…。悲しい
程に何もしてやれる事はなかった。彼の事故から1週間。気持ちが
落ち着いた。彼は相変わらず目を覚ましてくれない…。けどいつか

きつと目を覚ましてくれると信じることにした。毎日彼に1日の出来事を語りかける。それから半年、彼に話しかけたとき元気な声が返ってきたような気がした。「俺は大丈夫だから心配するなよ。」といわれた気がした。返事がくるわけもないのに…。私はまた自分の世界を作ってしまった。

その日私は彼の手を握って「弥、好きだよ。私はここにいるからね。元気になって私のトコに帰ってきて」といった。最後言葉になっっていなかっただろう。弥は病と闘っているのに自分は泣いてばかりだと思っただ…。でもずっと傍に居てあげたい。私が今ここで離れたら駄目！弥を見守らなきゃと誓った。事故から3年が経った夏。弥の所に行ったら弥の両親がいた。「菜恋さん毎日病院に来て弥に話しかけてくれてありがとうね。弥も幸せ者だよ。」といわれた。その後、彼の父に「弥ももう24だ。事故から3年も病と闘ってくれた。そろそろ弥を楽にしてやるうと思っただよ。君も弥の為によく頑張ってくれたね…。」私は彼の父が話している途中から泣いていた。胸が苦しかった。もっと彼と思い出を作りたい。17から大好きだった彼ともっと沢山一緒に居たかった。けど私の我儘で彼をこれ以上苦しめられない…。両親もこの決断をするまで悩んだろう。私は彼の両親の意見に了承した。そして翌日の昼彼は違う世界へ旅立った弥よく頑張ったね。ゆっくりお休み…。

- 完 -

(後書き)

内容はリアルなんですが、このお話はフィクションですww

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3194c/>

夏の思い出

2011年1月28日12時08分発行